

稲作 特別情報

ウンカ対策作戦中

管内 18 地区の定点圃場にて、分けつ、草丈などの生育状況、病虫害の発生状況などを重点に調査を行った“**水稲生育状況調査**”結果を提供しますので、ご活用ください。

6月中旬から曇りがちの天候が続いています。今後も曇りや、曇り一時雨と予報が出ています。急な雨や雷雨、台風に注意してください。



◆ トビイロウンカ（令和3年6月24日現在）

JA 広島市管内では、**トビイロウンカの飛来は未確認。**

引き続き、今後の動向に注意し、**株元を中心に観察**を行ってください。



◆ シカ・イノシシによる被害に注意

管内 18 地区の担当指導員からの調査報告によると、田植え 2 週間後からシカ・イノシシによる被害が発生しています。毎年、被害の発生が予測される圃場についてはワイヤーメッシュ、電気柵などの対策を講じてください。



◆ 茎数確保後の水管理（中干し）について

茎数（17～18本）が確保できたら、早めに中干しを行いましょう！！

品種	目標茎数	中干し開始茎数
コシヒカリ ヒノヒカリ	20～22本	17～18本

＜中干しの目的・効果＞

① 土壌中のガス抜きと酸素の供給

土の中に酸素を供給し、還元状態で生成される有害成分(硫化水素など)を除去することにより、根が活性化するので地中深くに張ります。

② 水を切ることにより、生育を抑えて茎数過多を防ぐ

過剰分けつする茎を抑制します。

③ 田面を硬くし、収穫作業を容易にする

土を干し、田面を硬くすることにより、刈り取りなどの機械作業がスムーズに行えます。

＜中干しの程度＞

徐々に間断かんがいの落水期間を長くしながら、田面にひび割れが入る程度に行います。なお、湿田では**強め**に、乾きやすい水田では**軽め**に行います。また、中干し後、急激に水を入れると根を傷める原因になるため、走り水程度から始めて徐々に湛水するようにしましょう。